

平成 21 年 5 月 18 日現在

研究種目： 若手研究 (B)
 研究期間： 2006～2008
 課題番号： 18720043
 研究課題名 (和文) 北米日系移民の日本語文学に関する総合的研究 1868-1945
 研究課題名 (英文) Study on Japanese language literature by the Japanese American: 1868-1945
 研究代表者
 日比 嘉高 (HIBI YOSHITAKA)
 京都教育大学・教育学部・准教授
 研究者番号： 80334019

研究成果の概要：北米日系移民の日本語文学についての歴史的かつ横断的な考察を行った。

永井荷風、翁久允、中島直人、谷譲次などの関連する作家についての研究を行った。また、サンフランシスコを中心とした日本語メディアの展開や、書店の成立とその役割などの調査分析を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000円	0円	1,300,000円
2007年度	700,000円	0円	700,000円
2008年度	700,000円	210,000円	910,000円
年度			
年度			
総計	2,700,000円	210,000円	2,910,000円

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 日本文学

キーワード： 日本人街、日本語文学、移民、アメリカ移民、永井荷風、翁久允、邦字新聞

1. 研究開始当初の背景

日系アメリカ移民の日本語文学についての研究は、これまでのところ日本の近代文学研究からも、米国におけるアメリカ文学研究からも取りこぼされてきた領域であるといえてよい。

近代文学研究においては、これまでの自国文化中心的な関心の方向がわざわざ、ほとんど通史的な研究が行われてこなかった。わずかに翁久允をはじめ永井荷風、有島武郎、

谷譲次などの滞米経験をもつ作家の一時的な経験として考察がされてきたに止まっていた。

また、アジア系アメリカ文学研究においては、日本語で書かれているという点が言語的な障壁となり、研究を進めることができていなかった。それゆえ、研究は主として日本人のアメリカ文学研究者が担ってきた。

これに対し、申請者はこの双方をまたぐことができるよう志し、研究活動を積み重ねてきた。日本と米国の双方で学会発表および論

文の公表を行って交流を進め、考察を深めてもいた。

平成 14 年に文部科学省在外研究員として「20 世紀初頭の米国日系移民のメディアと文学に関する研究」という課題のもとアメリカでの研究を行ったことをはじめとして、the International Comparative Literature Association 2004 と the Association of Asian American Studies Conference 2005 においてそれぞれ日系移民文学に関する学会発表を行った。これらの結果、アメリカにおける資料の所在、研究状況の把握、人的な交流などをかなりの程度蓄積することができていた。

また一方で、申請者のもともとの専門領域が近代文学研究であったこともあり、近代文学史に関する知見もある。かつ筑波大学文化批評研究会 ワークショップ、京都教育大学国文学会、マイグレーション研究会、日本近代文学会（いずれも平成 18 年）において研究発表を行ったほか、「漱石の「猫」の見たアメリカ——日系移民一世の日本語文学——」（『〈翻訳〉の圏域』筑波大学文化批評研究会編集・発行 pp. 227-243、平成 16 年）、「日系アメリカ移民一世の新聞と文学」（『日本文学』第 53 巻第 11 号 pp. 23-34、平成 16 年）の論文もすでに公表しており、蓄積もあつたと言える。

2. 研究の目的

以上述べたように、二つの領域をまたぐ申請者の研究はかなり進みつつあつたといえ、これに接続させれば、これまでの研究が明らかにすることができなかつた、近代日本文学と日系アメリカ文学をつなぐ独自の研究が可能となると考え、本研究計画を企画した。

日米関係の歴史的変動、人・モノ・情報の〈移動〉と〈定着〉、そこから立ち上がる日米どちらでもない文化の姿をどのように捉えればよいか。実証と理論の両面から考えねばならないこの課題に答えるべく、北米日系移民の日本語文学について、歴史的かつ横断的な考察を行いたい、というのが本研究の総合的な目標である。

おおよその研究の柱として、これまでの基礎調査の不足部分を埋め、まずは移民が始まった明治期から第二次大戦の前までの移民日本語文学史の基礎的資料調査を行うことを考えた。

さらに、その成果を踏まえつつ、各時代に特徴的な課題を設定して順次考察を加えていき、最終的に前述の期間におけるある程度包括的な文学史的記述を行うための分析作業を完成させる目的であつた。

3. 研究の方法

本研究は、「日本文学」「アメリカ文学」という従来の枠組みを越えたところで巻き起こっていた文化の創出と変容の動きに積極的に注目した。しかも北米日系移民の日本語文学をたんに歴史的に明らかにするだけではなく、〈移動〉と〈定着〉というキーワードを設定し、文化の変容と創出にまつわるこの二つの局面を具体的事例の中で検証しようとしたものである。

また、文学者および文学作品だけに注目するのではなく、新聞や雑誌などのメディア、書店や文士ネットワークなどの文学を支えた基礎的条件に関する包括的な分析を行う。ここから、研究計画のキーワードとして掲げる〈移動〉と〈定着〉が、移民社会の「日本語環境」と密接な連関をもって生起していたことがみえてくるはずである。

具体的には、次のような研究の計画に従つて遂行した。

- 1) 北米日系移民関連の基礎資料について、入手可能なものを購入した。
- 2) 米国太平洋岸の移民地における「日本語環境」がどのようなものであつたのか、移民新聞や回想資料、出版関係資料などをもとに追跡調査した。
 - 2-1 移民の日本語新聞紙上の書店広告の分析を進め、いかなる活動を行っていたか調べた。
 - 2-2 日本の出版関連業者——とりわけ海外取次業者などの関連資料を集め、分析した。

- 3) 移民地で活動した作家たちの滞米経験とその作品に関する調査分析を行った。
 - 3-1 永井荷風
 - 3-2 翁久允
 - 3-3 中島直人
 - 3-4 谷譲次 など
- 4) 日本人街を中心に、海外出張調査を行った。サンフランシスコ、ハワイなどである。
 - 4-1 Japanese American History Archives (サンフランシスコ) において資料収集・調査を行う。
 - 4-2 Japan Town (サンフランシスコ、ハワイ) の実地調査を行った。
 - 4-3 UC Berkeley 図書館において資料収集・調査を行った。
 - 4-4 ハワイ大学図書館において資料収集・調査を行う。

4. 研究成果

まず、北米日系移民の日本語環境について、かなりのことが明らかになってきた。もともとの領域については、社会学などを中心にエスニック・メディアについての蓄積があった。本研究においては、各地の邦字紙の文芸欄の検討や、移民で刊行された各種雑誌の分析を行った。

また日本人町に多数現れた日本語書籍を扱う書店についての研究を行った。その実態と役割については、サンフランシスコを中心に調査研究を行い、論文の形で報告している。

移民地で活躍した作家たちについても、成果があった。

まず、永井荷風について研究を進めた。彼は数年の滞在の後帰国し、日本で著名となった作家であるため、近代日本の作家というイメージが強いが、『あめりか物語』に収められた諸作品を中心に本研究によって、その滞米時代の業績について、“在米邦人”としての視点からの新しい評価軸が打ち出された。

また翁久允についても研究を行った。翁は在米日本人作家として代表的な人物であり、比較的研究の蓄積もある。この研究では、彼の移民地文芸論を中心に検討を行い、その混

成的なあり方を指摘した。

中島直人についても調査・研究を行った。これについては、ハワイでの現地調査を行い、出生地や関係した日本語学校も訪問した。ハワイ大での調査も行った。ハワイ出身で日本で活躍した二世作家として、その文学のあり方の特徴を、二重性や近代作家との同時代性などの観点から考察した。

また谷譲次についても、その“めりけんじやつぷもの”について、調査と作品分析を行った。

この他、数度の現地調査や研究会学会での報告を行っている（次の5. 参照）。その過程で得られた人的な交流や関係は、論文や研究発表に劣らぬ、貴重な成果であると考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

- ①日比嘉高，船の文学——『あめりか物語』「船室夜話」——，単著，『文学』岩波書店，第10巻第2号，2009年3月，pp. 41-49
- ②日比嘉高，望郷のハワイ——二世作家中島直人の文学——，単著，『文学研究論集』第27号，2009年2月，pp. 219-238
- ③日比嘉高，北米日系移民と日本書店——サンフランシスコを中心に——，単著，『立命館言語文化研究』，20巻1号，2008年9月，pp. 161-177
- ④日比嘉高，絡みあう「並木」——日本近代文学と日系アメリカ移民の日本語文学——，『京都教育大学紀要』第109号，2006年9月，pp. 33-45
- ⑤日比嘉高，転落の恐怖と慰安——永井荷風「暁」を読む——，『京都教育大学国文学会誌』第33号，2006年6月，pp. 33-45

〔学会発表〕（計 3 件）

- ①日比嘉高, アメリカへ渡る法——明治期の北米移民送出言説——, 筑波大学総合文学領域 国際シンポジウム「帝国の学知と表象——朝鮮、台湾、北米——」, 筑波大学, 2009年2月21日
- ②日比嘉高, 北米移民地における日本書店——サンフランシスコの場合——, 立命館大学国際言語文化研究所／日本人の国際移動所研究会 連続講座「国民国家と多文化社会」第18シリーズ「環太平洋における移動と労働」第Ⅲ回「近代書籍流通：日本語の交差（日本・北米・南米）」, 立命館大学, 2007年7月6日
- ③日比嘉高, Migrating People, Traveling Books (日本語仮題「旅する人と本」), The Annual Meeting of the Association for Asian Studies, San Francisco, April 6-9, 2006

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日比嘉高 (HIBI YOSHITAKA)
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：80334019

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし